

外部点検の総括について

1 外部点検について

- ・外部点検は、行財政改革指針に基づく取組のひとつとして、平成 23 年度から令和 3 年度まで、10 年間にわたって実施してきた。(コロナ禍により実施できなかった令和 2 年度を除く)
- ・福井市行財政改革指針(平成 29~33 年度)では、行財政改革の方向性として「質の高い行政経営」を目指すこととした。そのため外部点検においては、現在実施している取組の改善に繋がる、具体的な提案を行うこととした。
- ・第七次福井市総合計画の分野 I~IV の分野ごとに、点検を行うこととした。

2 平成 29 年度

- ・平成 29 年度は、第七次福井市総合計画の分野 I 「快適に暮らすまち」に属する 21 事業から、8 件 11 事業を選定し、点検を実施した。
- ・委員からの主な意見・提案として、
 - ◇他機関、部署との連携 (まちなか賑わい創出事業、民間によるまちなか活性化活動支援事業)
 - ◇調査・分析による現状把握、施策提案
(居住推進支援事業、コミュニティバス事業、地方バス路線等運行維持事業、地域コミュニティバス運行支援事業)
 - ◇市民目線の分かりやすい情報提供 (居住推進支援事業、景観推進、支援事業)
などがあった。
- ・意見等に対する担当部署の対応状況であるが、
 - ◇他機関、部署との連携では、まちなかの賑わい・活性化について、令和 2 年度に福井商工会議所・県・福井市が共同で「県都にぎわい創生協議会」を立ち上げ、まちなかに持続的な賑わいを作るための具体的な議論を進めている。
 - ◇調査・分析に基づく施策提案では、例えば「空き家」対策について、平成 29 年度に実態調査を行い、その結果をもとに建築物の所有者にアンケート調査を行った。そして、不動産団体等に相談したい、と回答した所有者に対して、不動産団体等を通して、意向に応じた利活用についてアプローチを行い、空き家の解消に努めたところである。
また、コミュニティバスに関して、平成 29 年に利用者アンケート、平成 30 年に沿線住民及び運転士のアンケート、先進地視察を行った。さらに、新ルートでの試走や停留所乗降者調査を行った。その調査等を踏まえ利用実態の分析等を実施した。
これをふまえて、平成 31 年 4 月に、ルート・ダイヤの変更を行った。
 - ◇市民目線の分かりやすい情報提供では、例えば、居住推進支援事業において、支援制度が一目でわかるように図式化したチラシを作成し、ホームページや窓口等での活用に取り組んでいる。
また、「市民に分かってもらえる景観のまちづくり」では、昨年度に、ふくい嶺北連携中枢都市圏における景観 PR 映像を制作し、今年度、ハピテラスの大型ビジョンやテレビ放送を通じ発信する予定である。

3 平成30年度

・平成30年度は、分野Ⅱ「住みよいまち」に属する40事業から、8件13事業を選定し、点検を実施した。

・委員からの主な意見・提案として、

◇担い手の育成（ボランティア活動支援事業、市民協働推進事業）

◇民間企業からの協力（放課後児童健全育成事業、自然環境保護・活用事業、環境教育・普及事業）

◇地域防災力向上ための取組強化（自主防災組織支援事業、要支援者対策事業）

などがあった。

・意見等に対する担当部署の対応状況であるが、

◇市民活動団体などの担い手の育成では、公益的事業に助成する「ふくい市民活動基金助成事業」により、市民活動団体の育成につなげている。

（平成30年度:5団体:127万円 ➡ 令和3年度:11団体:214万円）

◇自然環境保護や環境教育における、民間企業からの協力については、福井市環境推進会議に企業等に参画いただき、協力を得ている。当会議の認知度向上とさらなる会員募集のため、発足10周年にあたる令和3年度は、「シンボルマーク」と「標語（スローガン）」を募集、決定した。これらを今後の活動に取り入れ、福井市環境推進会議の活動周知、会員募集に役立てていく。

スローガン（最優秀賞）

「未来へつなごう 大切な資源 大切な環境 大切な子どもたちへ 福井市環境推進会議」

◇地域防災力向上ための取組強化については、令和3年5月の災害対策基本法の一部改正により、市町村に、要支援者の個別支援計画策定が努力義務とされた。

そのため、個別支援計画について、市民にとって利用しやすい制度となるよう、見直しに取り組んでいる。

4 令和元年度

・令和元年度は、分野Ⅲ「活き活きと働くまち」に属する34事業の中から8件16事業を選定し、点検を実施した。

・委員からの主な意見・提案として、

◇広域的な連携、PR（国内観光誘客事業、インバウンド推進事業）

◇専門的人員の配置（マーケット開発支援事業、繊維産業稼ぐ力向上事業）

◇マンネリ化の回避、取組の工夫（商店街活性化支援事業、福井フェニックスまつり、ふくい春まつり開催事業）

などがあった。

- ・意見等に対する担当部署の対応状況であるが、

◇観光分野での広域的な連携、PRでは、「福井市」のエリアに限らず、連携中枢都市圏を構成する、周辺市町の観光素材も活用し、「福井」のPRという視点で、SNS等による発信を行っている。

また、さいたま市を中心とする新幹線沿線都市（26都市）で構成される、「東日本連携・創生フォーラム」に参加し、首都圏向けの情報発信を図るなど、福井の認知度向上に努めている。

◇商工分野における補助制度などの専門的人員の配置については、経済産業省に派遣された経験を持つ職員を配置し、その知見を活かして、中小企業者の支援や、コロナ対策等を行っている。

◇福井フェニックスまつり、ふくい春まつりなどの取組の工夫については、令和2年以降、コロナ禍の中で開催の中止や縮小等を余儀なくされているが、北陸新幹線福井開業を見据えて見直し検討会議を実施している。今後も、若者の意見を取り入れるなど工夫しながら、まつりの魅力向上につなげていく。

5 令和2年度

- ・令和2年度は、分野Ⅳ「学び成長するまち」に属する事業の中から対象事業を選定し、実施する予定をしていた。
- ・新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、事業の中止や延期を余儀なくされていること、感染拡大防止や地域経済・市民生活の維持に注力する必要があることから、令和3年度に延期した。

6 全体をふりかえって

- ・委員からいただいた、「他機関、部署との連携」、「広域的な連携」、「担い手の育成」、「調査・分析による現状把握、施策提案」、「市民目線の分かりやすい情報提供」などのご意見は、点検対象事業のみにとどまらず、市の施策推進の上で、非常に大事な視点である。
- ・これまでいただいたご意見について、全庁的に共有し、施策を進める上での道標としていく。